

第1章

計画策定の趣旨

1 背景と目的	4
2 計画の位置付け	6
3 計画期間	7

1 背景と目的

本市の観光基本計画は、時代の流れや旅行ニーズの多様化に合わせ、過去3回にわたり策定してきました。第1次計画は「観光資源の掘り起こし」、第2次計画は「観光の産業化」、第3次計画は「観光文化のまちづくり」といった基本コンセプトに基づき、これまでに様々な施策を展開してきました。前計画では、まちの発展と観光振興は非常に密接な関係であるとの認識のもと、観光の力で魅力あふれる「まちづくり」を進めてきた10年間でした。

この間、国内では、人口の減少や世界的な経済不況による旅行需要の低下のほか、東日本大震災とそれに伴う原発事故により、観光業界も大きな打撃を受けました。しかしながら、大震災の影響もほぼ払拭され、リーマンショック以前の水準まで回復してきており、大きく落ち込んだ外国人観光客も、国を挙げての積極的な海外向けプロモーションの効果により、過去最高の1千万人に達し、今後も増加が見込まれています。

これまで本市は、全国の各地域におけるキャンペーンやイベントの実施、まちあるき観光の推進などによる滞在型観光の取り組みなどを行ってきており、さらには、函館観光の一大転機となるものと期待されている、平成27年度末の北海道新幹線開業を見据えた、北

関東以北へのプロモーションをはじめ、道南圏・青函圏の広域連携強化を図ってきました。同時に、東アジアや東南アジアなど、海外に向けたプロモーションにより、来函外国人観光客の誘致にも努めてきました。こうしたことから、平成元年に、観光都市としてより一層の飛躍を目指し、全市民の総意と熱意をもって宣言した「国際観光都市・函館」が、より身近に感じられるようになってきました。

全国有数の観光都市に住む私たちは、これらの取り組みを継続しながら、先人たちによって脈々と受け継がれてきた歴史、景観、食などの素晴らしい観光資源を大切に守り、次の時代に継承していくとともに、時代の流れをしっかりと見極めながら、これからも観光客の期待に応え続けられるよう、常に新たな局面へのチャレンジを続けていく必要があります。そのためには、市民や観光関連事業者、各種関係団体など、全ての人たちの指針となる観光振興ビジョンを明らかにし、こうしたビジョンに基づく各種の施策により、市民が誇れる観光都市を実現していかなければなりません。

そうした背景を踏まえ、次の時代へ向けた函館観光のさらなるステップアップを図ることを目的に、この度、新たに第4次となる函館市観光基本計画を策定することといたしました。

函館市観光基本計画の変遷

第1次計画 1982-1993

恵まれた自然資源と豊かな人文資源の保全と活用



第2次計画 1994-2003

きらめきとふれあいの国際観光都市・函館



第3次計画 2004-2013

「観光文化」のあるまち・函館



第4次計画 2014-2023

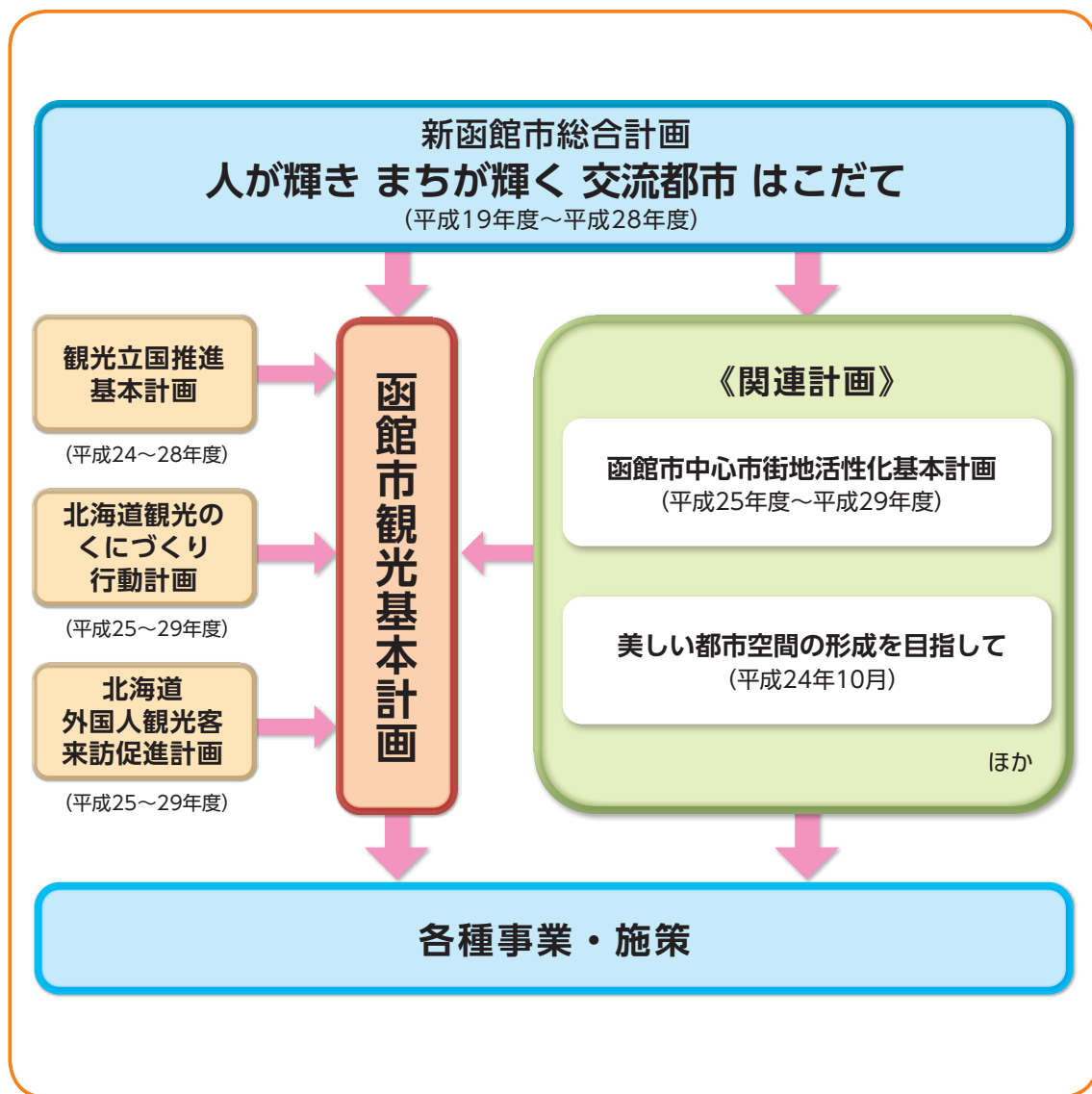
新たな観光基本計画の策定

2 計画の位置付け

この基本計画は、「新函館市総合計画」における分野別の各論のうち、観光に関する個別計画として位置付けられるものです。

経済状況等の社会情勢の影響を受けやすい観光分野においては、国や北海道の動きはもちろんのこと、時代の流れを的確に見極めつつ、常に本市の特性にあった状況判断が求められます。

本計画は、これからの観光振興に関する基本的な指針を示すものとして策定したものであり、第4章には、そのための具体的な取り組みを記載していますが、それらの効果的な推進にあたっては、関連計画などとの整合性を考慮しながら、型にとらわれない新たな視点を柔軟に取り入れていく必要があります。



3 計画期間

本計画の期間は、平成26年度から平成35年度までの10年間とします。

計画策定後は、進捗状況の管理に努めるとともに、5年後に中間評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととします。